

平成 25 年度施策マネジメントシート1(平成24年度実績の評価)

作成日 平成 25 年 8 月 29 日

総合計画体系	政策名	Ⅲ 地域で支えあうくらしづくり 《保健・医療・福祉》	施策主管課	健康推進課
			施策統括課長	上村 博子
	施策名	16 地域医療の充実	関係課	市民環境生活課,健康福祉総務課,長寿障がい福祉課,地域包括支援センター、保健福祉課,掛合診療所,市立病院

1. 施策の目的と指標

目的	①対象(誰、何を対象としているのか)	対象指標		単位	区分	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	
		A	B			実績	実績	実績	実績	実績	実績	
市民	安心して医療機関を利用できる。	A	人口	人	実績	42,428	41,917	41,159	40,548			
						見込		41,159	40,548	40,440	39,949	
		B				実績						
							見込					
		C				実績						
							見込					
	②意図(どのような状態にするのか)		成果指標		単位	区分	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度
	安心して医療機関を利用できる。	A	安心して医療機関を利用できると感じる市民の割合				%	実績	61.3	72.1	73.9	71.8
					目標					63.0	64.0	65.0
		B	病院に救急搬送されるまでの平均時間(急患搬送時間=現着~病院着)		分	実績	19分16秒	19分14秒	19分13秒	18分8秒		
							目標			22	22	22
		C	参考)病院に救急搬送されるまでの平均時間(救急通報~病院着)		分	実績			41分49秒	41分17秒		
目標									-	-	-	-
D				実績								
					目標							
成果指標設定の考え方(成果指標設定の理由)		安心して医療機関に受診できるためには、A)安心して医療機関を利用できると市民が感じること、B)救急医療の対応ができる病院が近いことが必要であると考えた。										
成果指標の測定企画(実績値の把握方法)		A)市民アンケート調査で把握「あなたは安心して医療機関を利用できると感じますか？」 B)雲南消防本部										
目標設定とその根拠(基本計画策定時)		A)安心して医療機関を利用できると感じる市民の割合 成行値は、現状程度で推移すると予測する。目標値は、医師確保などづくりに充足できる見込みはなく、大幅な改善は期待できないが、引き続き課題解決に向けて取り組んでいくことで、現状から低下させず微増させていく。 B)病院に救急搬送されるまでの平均時間 道路環境の大きな変動はないとの見方から現状と同程度とする。ただし、医師不足から圏域内での救急受入体制が減退し、患者の搬送先の見直しが生じた場合、目標値を変更する必要がある。また、来年度、島根県においてドクターヘリが導入され、搬送時間の短縮が図られる可能性がある。										

2. 基本事業の目的と指標

基本事業名	対象	意図	成果指標	単位	区分	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度
① かかりつけ医制度の普及	市民	かかりつけ医をもつ。	かかりつけ医を持つ市民の割合	%	実績	74.5	76.1	74.4	73.9		
② 2次医療機関の充実と救急体制の維	市民	2次医療や救急医療を受けられる。	市内病院へ救急搬送される市民の割合	%	実績	58.8	59.5	56.0	55.9		
③					実績						
④					実績						
⑤					実績						

3. 施策の役割分担と状況変化

役割分担	住民(事業所、地域、団体)の役割	行政(市、県、国)の役割
①	●身近なかかりつけ医を持つ。また、適正に医療機関、救急診療を利用する。	●医療機関との連携によるネットワークの整備、医師の確保を図る。 ●住民に地域医療の適正な利用を啓発する。
②	A) 施策を取り巻く状況(対象や根拠法令、社会情勢等)は、今後どのように変化するか?(本年度を見越して) ○高齢化の進行により、交通弱者の増加が懸念される。○島根大学での地域枠推薦等により、市内出身医学生が年2名程度増えて現在12名の医学生がいる。 ○ドクターヘリがH23年6月から導入され、県内での利用実績は雲南圏域が最も高い状況である。○市立病院ではオープンベットなどに病診連携が進んでいる。またまめネット導入で病診連携が進んでいる○市内では医師・看護師の確保が困難な状況が続いている。○H24年度に島根県及び雲南圏域の医療計画が策定された。	B) この施策に対して、住民(対象者、納税者、関係者)、議会からどんな意見や要望が寄せられているか? ○住民からは、医師不足などによる医療に対する不安感が高く、同様に議会からも医師不足を解消し、医療体制の安定提供を求められている。 ○ドクターヘリの利用率が県内でも高く、市民の安心感につながっている。

4. 施策の成果水準の分析と背景・要因の考察

他団体との比較(近隣市町、県・国の平均と比べた成果水準)	
<input type="checkbox"/> 近隣他市と比べてかなり高い水準である。 <input type="checkbox"/> 近隣他市と比べてどちらかと言えば高い水準である。 <input type="checkbox"/> 近隣他市と比べてほぼ同水準である。 <input checked="" type="checkbox"/> 近隣他市と比べてどちらかと言えば低い水準である。 <input type="checkbox"/> 近隣他市と比べてかなり低い水準である。	背景・要因 ○雲南市の年齢調整死亡率は県平均より低く、平均自立期間も長い。 ○H23の患者調査によると、圏域の受療率(人口10万対患者数)は3,684で県平均の2,571より高くなっている。雲南市民が雲南圏域で受診した割合は60.6%で自県域内完結状況は7つの圏域で5番目である。(出雲市91.8%。大田市54.5%)

平成25年度施策マネジメントシート2(平成24年度実績の評価)

《16 地域医療の充実》

4. 施策の成果水準の分析と背景・要因の考察

時系列での比較(成果水準の推移)	
<input type="checkbox"/> 成果がかなり向上した <input type="checkbox"/> 成果がどちらかと言えば向上した <input checked="" type="checkbox"/> 成果はほとんど変わらない(横ばい状態) <input type="checkbox"/> 成果がどちらかと言えば低下した <input type="checkbox"/> 成果がかなり低下した	背景・要因 ○安心して医療機関を利用できると感じる市民の割合は、H23年度に比べるとやや低下したが、H22年度とはほぼ同水準であり、ドクターヘリの整備やオープンベットによる病診連携の推進、市立病院の医師などや市保健師による出前講座等が市民の安心感向上につながり、高い成果で推移していると推察する。 ○かかりつけ医をもつ市民の割合も同水準で近年推移している。50歳以上は70-90%持っている。

5. 施策の振り返り評価

施策の目標達成度(前年度の成果指標値に対する実績値の達成度)	
<input checked="" type="checkbox"/> 目標値より高い実績だった <input type="checkbox"/> 目標値どおりの実績値だった <input type="checkbox"/> 目標値より低い実績値だった	背景・要因 ○3次医療機関との連携が強化され、市立病院の病床利用率の向上につながっているほか、ドクターヘリの導入、オープンベットによる病診連携の推進、医師や保健師による出前講座等が市民の安心感の向上につながっていると考える。

基本事業	取り組んだ事務事業の総括(事務事業貢献度評価:貢献した事務事業、課題が残った事務事業)
① かかりつけ医制度の普及	・予防接種や検診の市内開業医での受診の普及に取り組んだ。 ・「子どもの急病 上手なお医者さんのかかり方」のパンフレット配布など、正しい医療機関の利用方法を啓発した。
② 2次医療機関の充実と救急体制の維持	・医療職人材確保事業では、H24年度に2名の地域枠推薦入学があり現在12名が医学部に在籍、また、卒業生1名がH25年度から市立病院で地域研修に従事している。・救急医療病院運営補助事業により、休日、時間外の救急患者の受け入れを確保した。・市立病院改築事業は、H24年度に基本構想を策定し、H25年度は基本設計に取り組む。・市立病院のオープンベットの利用および退院時共同指導は月平均1.6人の実績があり病診連携を推進した。・ドクターヘリは102件の利用があり、県内で1番利用が多い。また、離発着場1か所を整備した。
③	
④	
⑤	

6. 今後の課題と次年度の方針(案)

区分	今後の課題	次年度の方針(案)
施策	○市立病院の健全経営の維持と病院改築が喫緊の課題である。 ○医療従事者の継続的な確保に取り組んでいく必要がある。 ○県および圏域医療計画に従って、市の医療計画を進めていく必要がある	○市立病院の健全経営の維持に取り組むとともに、病院改築について進めていく。 ○医療従事者の確保に取り組んでいく。 ○雲南市総合保健福祉計画を改編し、H27年度からの市の医療計画を策定する。
基本事業	① かかりつけ医制度の普及	○継続的に広報活動を実施していく必要がある。 ○市内医師会の協力を得て、かかりつけ医制度の普及や病診連携をすすめていくことが重要である。 ○継続的に広報活動を実施していく。 ○雲南医師会とともに病診連携を推進していく。
	② 2次医療機関の充実と救急体制の維持	○市立病院の健全経営の維持に取り組んでいく。 ○市立病院の改築を進めていく。 ○医療従事者の確保に取り組んでいくために高校、中学生のころから、医療体験や学校への出前講座を増やしていく。 ○圏域外の医療機関等と連携体制を強める。
	③	
	④	
	⑤	